

統合した場合

統合により、一般的にメリットと考えられる事項	統合により、一般的にデメリットと考えられる事項
〔保育の観点〕 ● 集団の規模を活かした保育と少人数のグループ活動なども可能になることや、児童から多様な意見を引き出しやすくなり、保育の幅が広がる。 ● 児童が集団の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける。 ● 友達が増えること、男女比の偏りが少なくこと、人間関係が固定されにくいことその他、集団遊びが成立することにより、異年齢交流が増えることに期待できる。 〔保育体制への影響〕 ● 職員の経験年数や専門性、男女比等についてバランスのとれた職員配置がより容易になる。 ● 保育所運営を複数の職員が担うことで、各個人に大きな負担が生じにくい体制になる。 ● 職員規模が増えることで、職員同士が協力したり切磋琢磨しやすくなること、出張や研修に参加しやすい環境となること、多面的な視点で児童を評価し、保育が実施できることにより保育の質の確保に期待できる。 ● 人手不足の課題を解決する有効な手段となり、安定した保育所運営に繋がることに期待できる。 〔施設管理〕 ● 限られた予算を集中的に活用することができ、より安心安全で快適に過ごすことの出来る保育環境づくりが促進される。 〔その他〕 ● 年度途中の入所や一時保育、こども誰でも通園制度といった事業に対応しやすい体制となり、保護者の利便性や選択肢の広がりに期待できる。 ● 保護者会活動において、保護者一人当たりの負担が減る。 ● 経費（施設ごとに発生する費用や水光熱費）の削減や効率化の効果がある。	〔保育の観点〕 ● 地域素材をふんだんに取り入れた保育、地域の伝統や文化に根ざした保育を構成しづらい。 〔保育体制への影響〕 ● 園運営や保育の構成について職員のベクトルを揃えるのに時間がかかる場合がある ● 子ども、職員の規模が多くなると事前準備や打ち合わせに時間がかかる。 〔環境の変化〕 ● 新たな環境での生活に戸惑いが生じることにおいて配慮が必要。 〔通所条件〕 ● 通所時間が増えることによる負担増や家庭の時間等の減少といった課題。 〔地域への配慮〕 ● 統合後の地域と保育所の関係が希薄化することが懸念される。 ● 保育所は児童に対し保育するための施設であるだけでなく、地域コミュニティの一つの核としての要素を有することもあり、今後の地域づくりのあり方が変わることが懸念される。

4カ所が存続した場合

存続により、一般的にメリットと考えられる事項	存続により、一般的にデメリットと考えられる事項
●一人ひとりの特徴や成長、環境への適応状況を把握しやすく、個別支援を含めたきめ細かな保育が行いやすい。 ●児童同士や職員と児童の関係が密になり、深く人間関係を構築する力を身につけさせることができる。 ●集団の中で発言することや、発表の場が確保されやすく、自己表現の機会が確保されやすいことや、集団の中で役割が提供される頻度が増えることを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける。 ●所庭や部屋等を余裕をもって使える。 ●異年齢の児童との交流活動を組みやすい。 ●子ども、職員数が小規模だと準備段階で時間がかからず、小集団でフットワーク軽く動けるため、結果的に子ども達の経験の幅が広がる可能性がある。 ●児童の家庭状況、地域の環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な保育が実施しやすい。	●集団での遊びや活動、保育生活におけるグループ分けの他、児童から多様な反応や発言が引き出しにくく、保育の展開に制約が生じる。 ●男女比や年齢毎の児童数が偏りやすい。 ●規模を確保するため、異年齢の児童同士を同一のクラスとするため、個別の年齢に合わせた保育計画の策定や、保育の展開に制約が生じやすい。 ●集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験が積みにくい。 ●切磋琢磨する環境の中で、意欲や成長が引き出されにくい。 ●進学等の際に大きな集団への適用に困難を来す場合がある。